

令和5年度 豊田市男女共同参画社会に関する 調査報告書

概要版

調査の目的

本調査は、「クローバープラン（第4次とよた男女共同参画プラン）：令和2～6年度」の計画期間終了（令和6年度）に伴い、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態を調査したものです。本調査と過去の意識調査を比較・分析し、新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

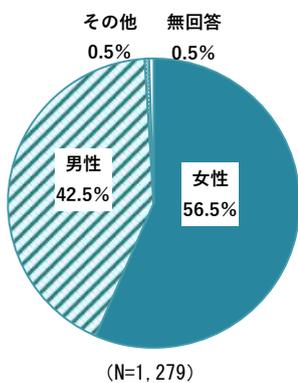
調査の方法

	市民アンケート	中学生アンケート	事業所アンケート
調査対象者	市内在住の満18歳以上の男女	市内の中学校に通う男女	市内に立地する従業員300人以下の事業所
調査票配布数	4,000人	504人	300事業所
調査期間	令和5年9月29日～ 令和5年10月20日	令和5年12月5日～ 令和5年12月15日	令和5年9月29日～ 令和5年10月20日
調査方法	郵送配布・郵送/WEB回収	WEB回収	郵送配布・郵送/WEB回収
回収結果	1,279人 (32.0%)	357人 (70.8%)	103事業所 (34.3%)

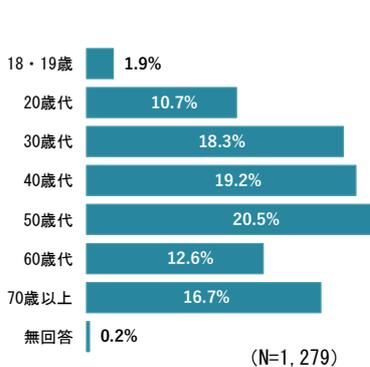
※図中の%の値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

回答者の属性（市民アンケート）

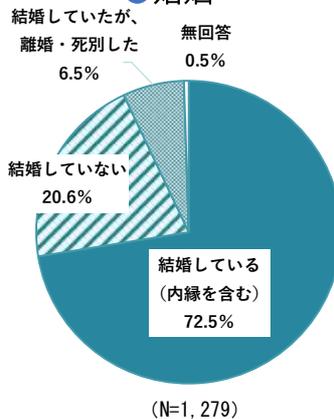
●回答者の性別



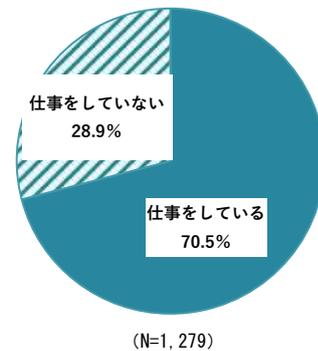
●回答者の年齢



●婚姻



●就業

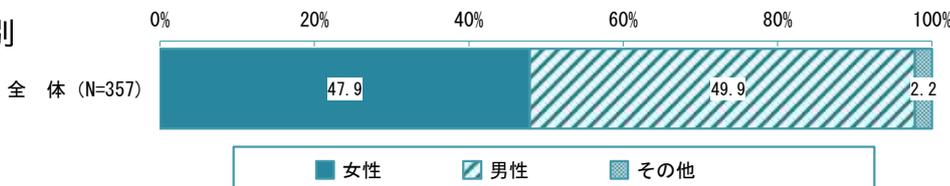


回答者の属性（事業者アンケート）

主な業種	製造業	28.2%	従業員数	1～50人	47.6%	女性従業員 比率	2割未満	30.1%
	医療・福祉	16.5%		51～100人	17.5%		2～4割未満	35.0%
	建設業	13.6%		101人以上	35.0%		4割以上	35.0%
	運輸業	13.6%						

回答者の属性（中学生アンケート）

●回答者の性別



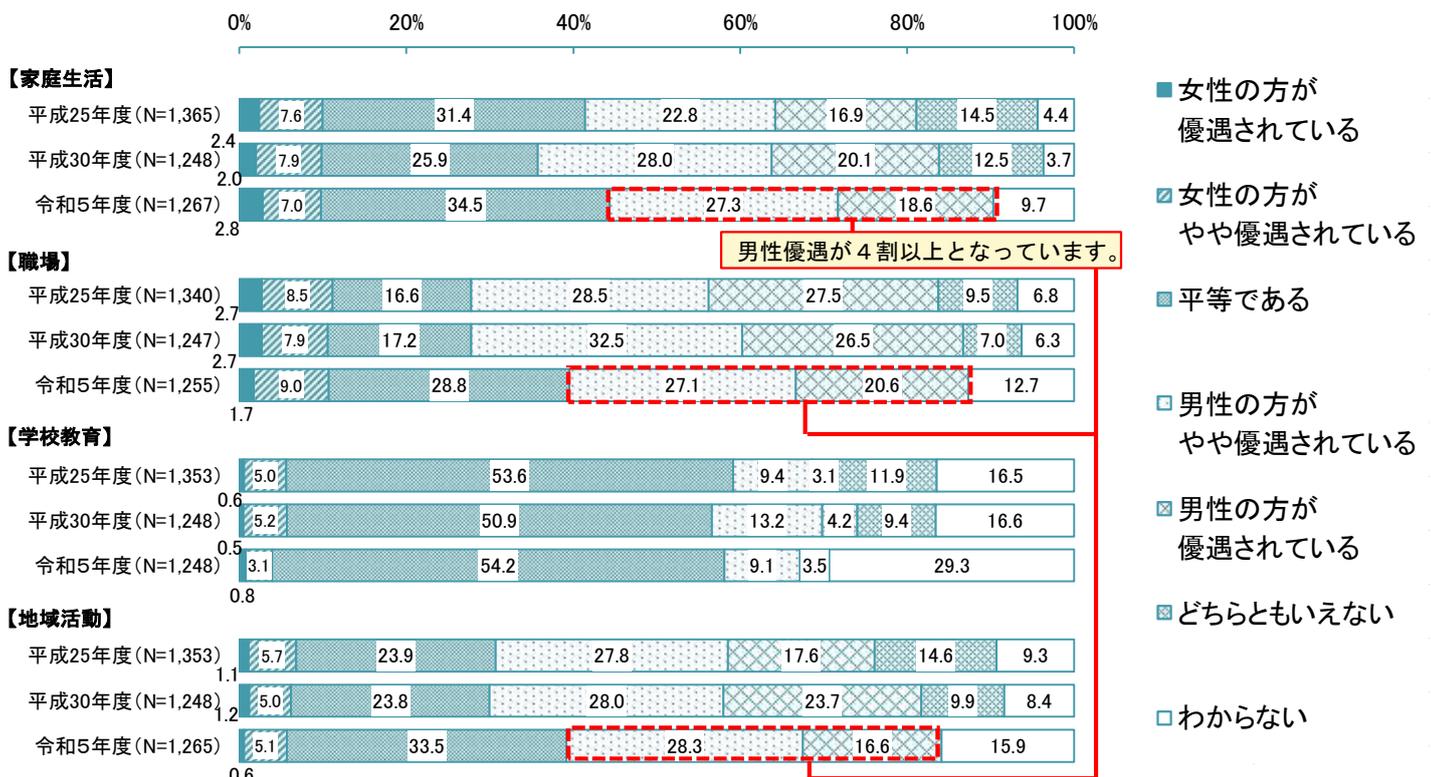
1 男女共同参画に関する意識と実態

① 家庭、職場、地域における男女の平等観

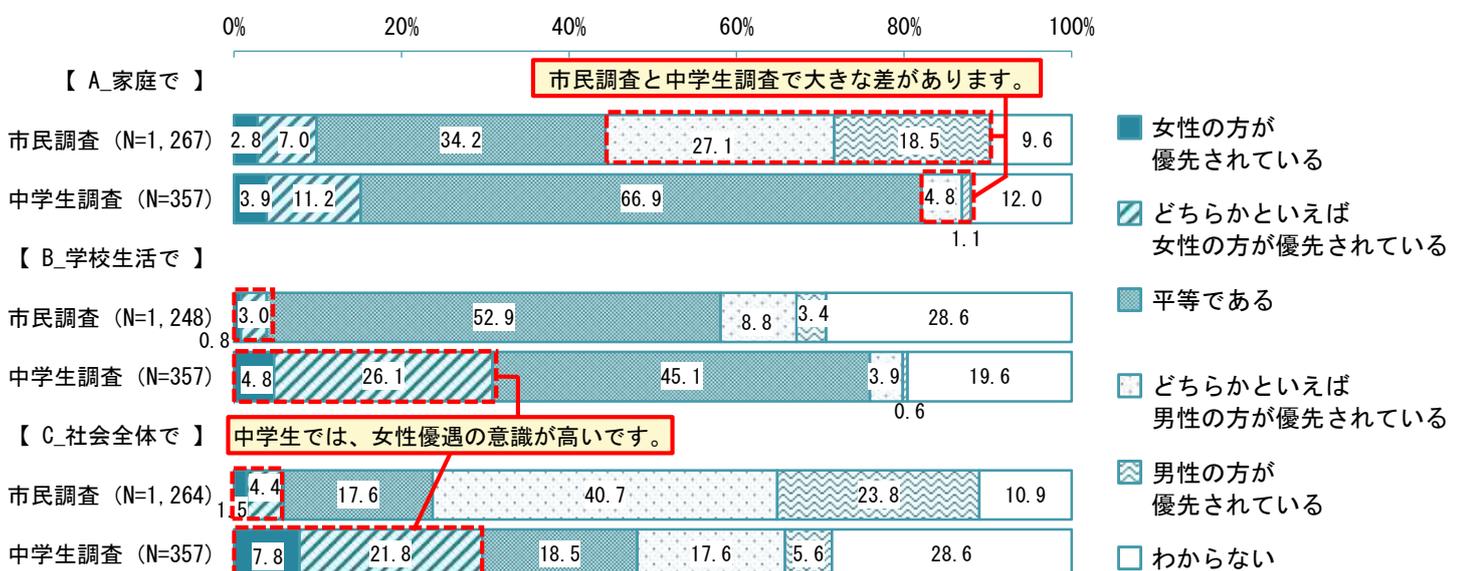
家庭生活、職場、地域社会における男女の平等観については、「平等である」と感じている人が年々増加し、「男性が優遇されている」と感じている割合は減少傾向となっているものの、学校教育の場を除く項目では依然として4割以上となっています。

中学生調査では、家庭生活において「男性が優先されている」と感じている割合は1割以下、「平等である」が7割弱と市民調査と大きく異なる結果となっています。また、【学校生活】【社会全体】においても市民調査と比べて「女性が優先されている」と感じる割合が多い結果となり、若い世代と認識に差があることがわかります。

● 【市民】 家庭生活、職場、学校教育、地域社会における男女の平等観（経年比較）



● 【中学生】 家庭生活、職場、地域社会における男女の平等観（市民調査比較）



② 男女の役割に関する考え方と行動

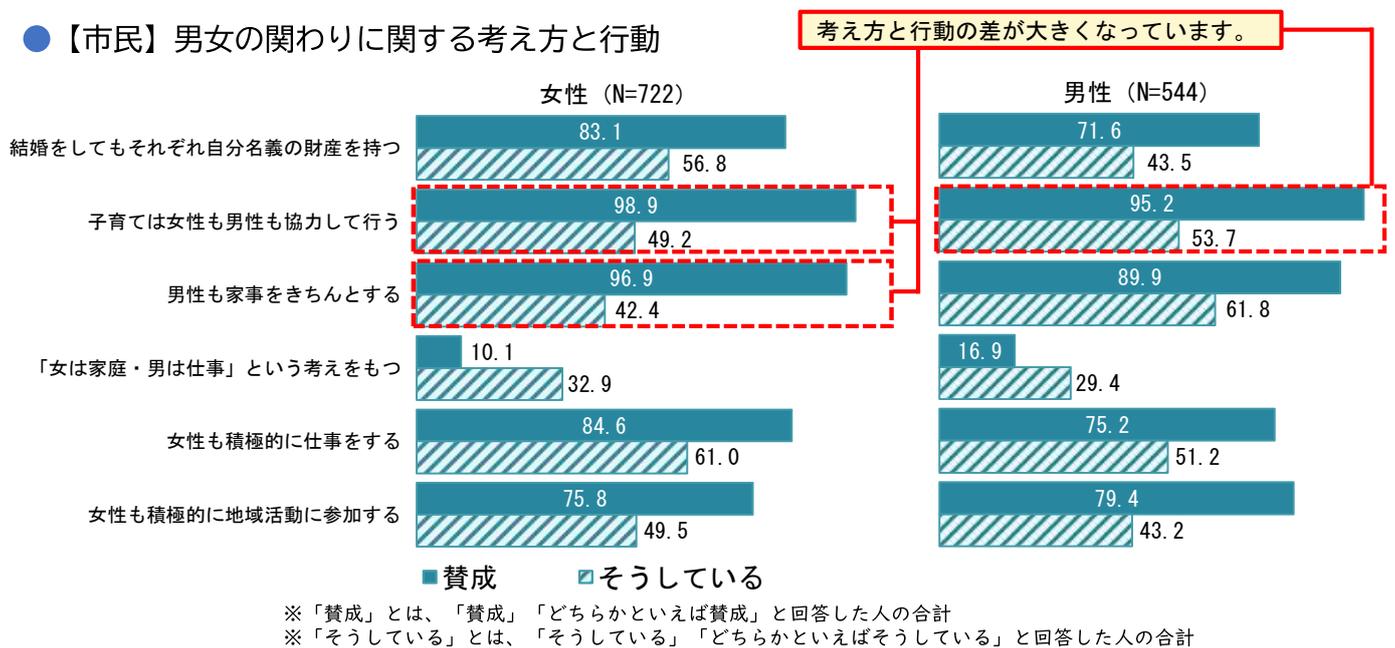
男女の関わり方に関する考え方を男女別で見ると、「子育ては女性も男性も協力して行う」「男性も家事をきちんとする」について、「賛成」が男女ともに約9割以上と多くなっています。一方で、実際の行動をみると「そうしている」の割合は考え方と比較して約半分ほど減っており、理想と現実との間にギャップがあることがわかります。

考え方と行動の差が大きい項目をみると、女性では「男性の家事」「子育ての男女の協力」の順に、男性では「子育ての男女の協力」「女性の地域活動」の順に差があるという結果となっており、男女間の認識に差があることがわかります。

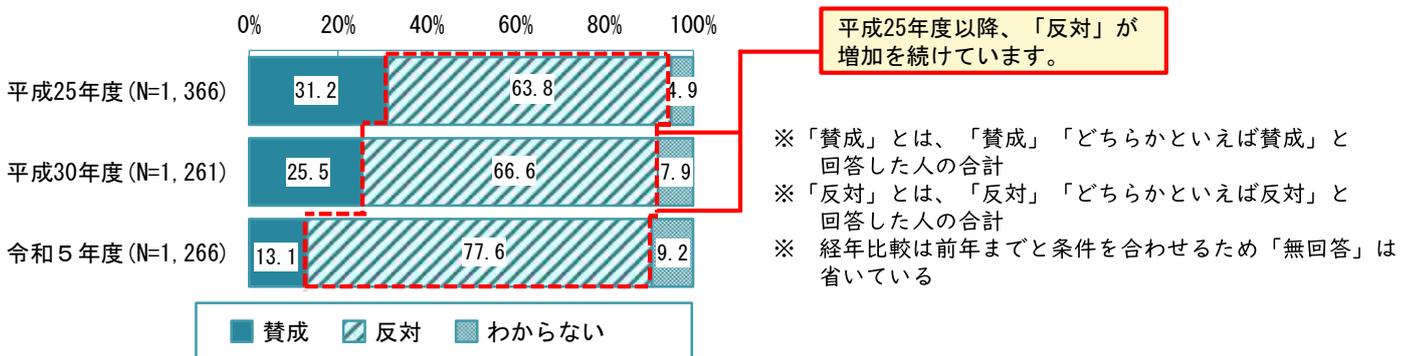
また、「女は家庭・男は仕事」という考え方について経年比較をみると、平成25年度では「賛成」が3割だったのが令和5年度には1割程度と大幅に減少しています。

中学生調査との比較をみると、中学生では「賛成」が市民調査より多くなっていますが、それ以上に「わからない」が多く、まだ考えが定まらない人が多いと思われます。

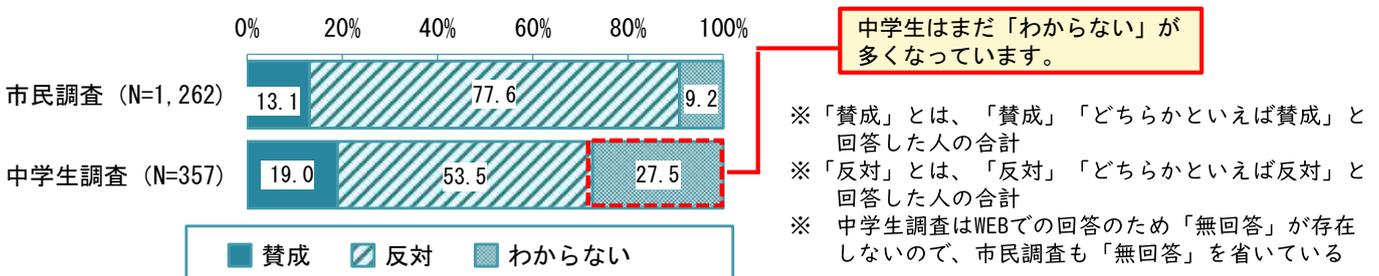
●【市民】男女の関わりに関する考え方と行動



●【市民】「女は家庭・男は仕事」という考え



●【中学生】「女は家庭・男は仕事」という考え（市民調査との比較）

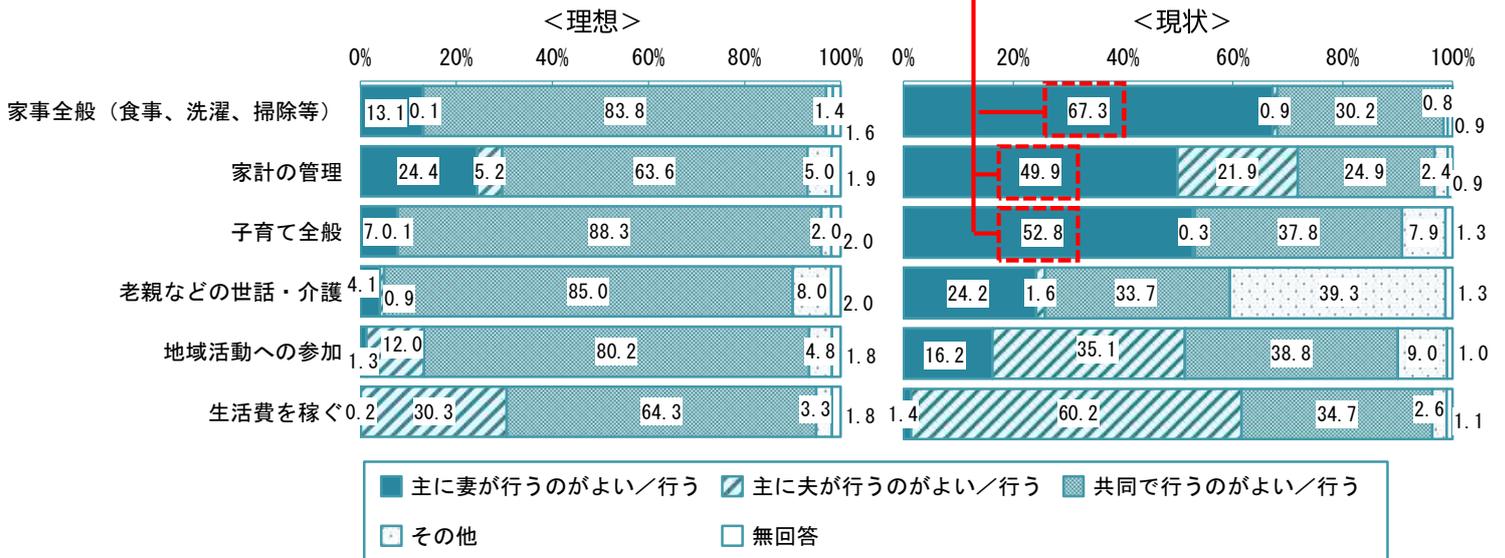


2 家庭や地域における男女平等

① 家庭における男女の役割分担

夫婦の役割分担の理想と現状について、「理想」では全ての項目で、「共同で行うのがよい」という回答が最も多くなっていますが、「現状」では、「共同で行う」との回答は全ての項目で減少し、特に家事や家計の管理、子育てでは「主に妻が行う」という回答が多く、妻の負担が大きくなっています。また、生活費を稼ぐのは「主に夫が行う」という回答が多く、性別によって役割が固定された状態が続いていることが分かります。

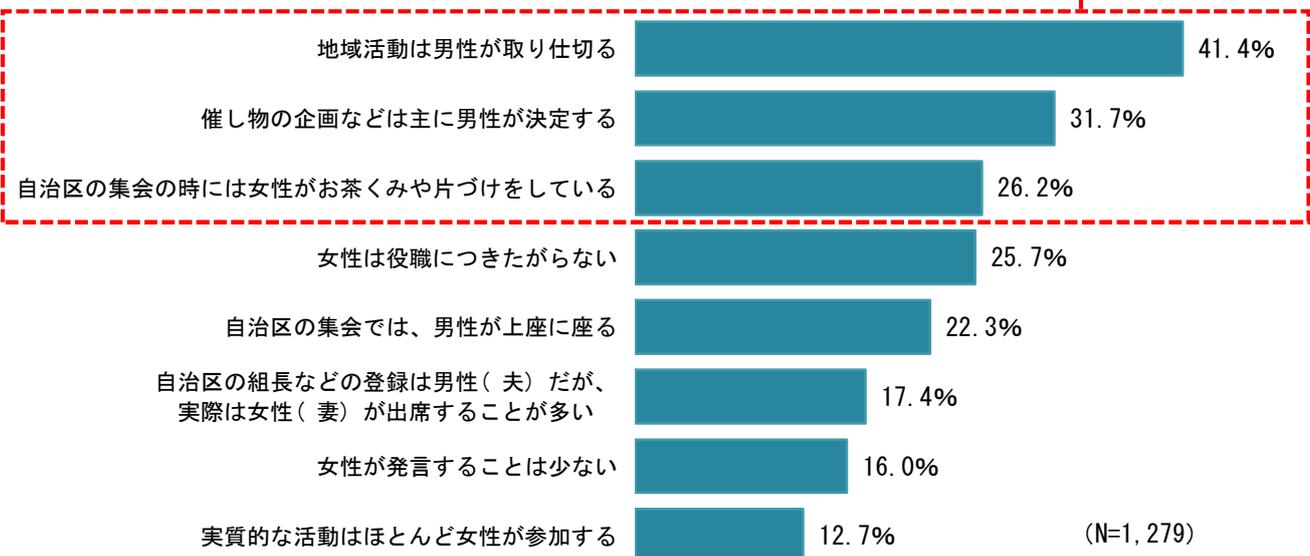
●【市民】家庭における夫婦の役割分担



② 地域活動における男女の役割分担

地域活動における男女の役割分担について「そうしている」との回答は、「地域活動は男性が取り仕切る」が41.4%、「催し物の企画などは主に男性が決定する」が31.7%となっており、固定的な性別役割分担が残っている状況です。

●【市民】地域活動における男女の役割分担（「そうしている」の割合）



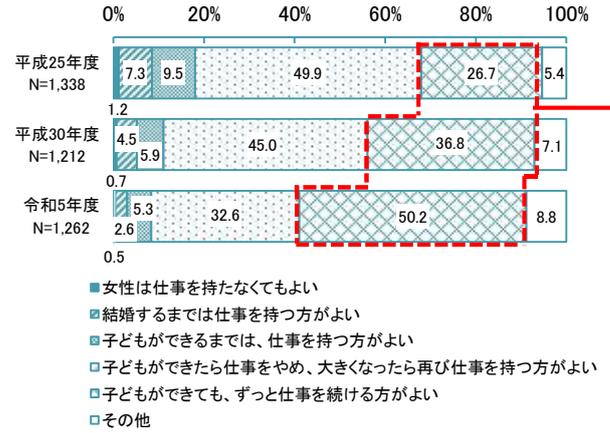
3 職場における男女平等と女性活躍推進

「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が増加し続けています。

① 女性が仕事を持つことについての考え

女性が仕事を持つことへの考えについては、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」が前回調査から10ポイント以上増加して約5割となり、継続して働くことを望む人が増えています。「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」は3割強となっていますが、前々回調査以降は減少を続けています。

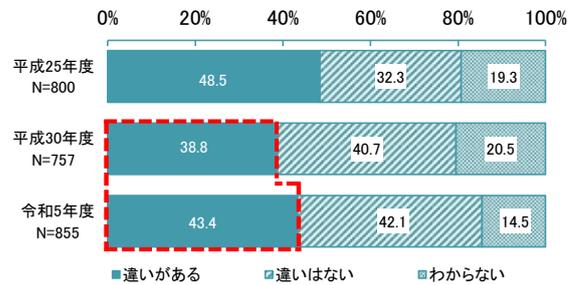
●【市民】女性が仕事をもつことについての考え



② 男女の待遇や仕事の違い

職場での男女による待遇や仕事の違いについては、「違いはない」という回答が年々増加傾向にあるものの「違いがある」の回答も4割強となっており、職場環境のさらなる改善が求められます。

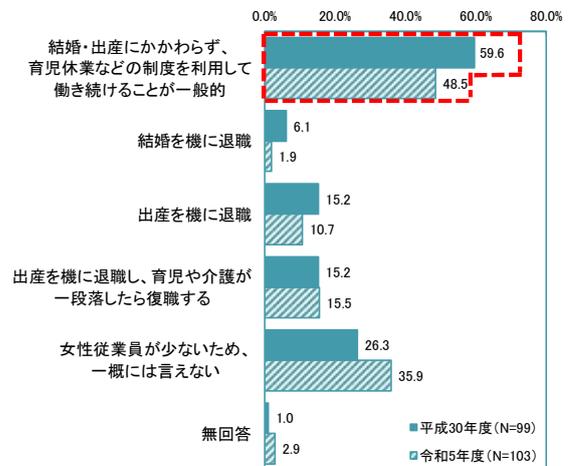
●【市民】性別による職場での違いの有無



③ 事業所における女性従業員の就労の傾向

事業所における女性従業員の就労の傾向については、「結婚・出産にかかわらず働き続けることが一般的」との回答が5割弱で最も多くなっていますが、前回調査からは10ポイント以上減少しています。「結婚を機に退職」「出産を機に退職」はともに前回調査から減少しています。

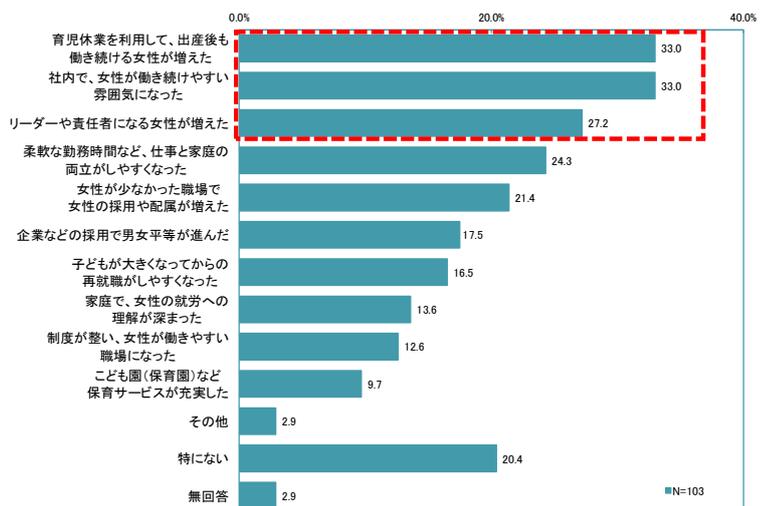
●【事業所】女性従業員の就労の傾向



④ 女性の能力発揮に向けて進んだこと

女性の能力開発に向けて5年間で進んだことは、育児休業を利用した継続就労、女性が働きやすい職場の雰囲気、リーダーや責任者になる女性が増えたとの回答が多くなっています。

●【事業所】女性の能力発揮に向けて進んだこと

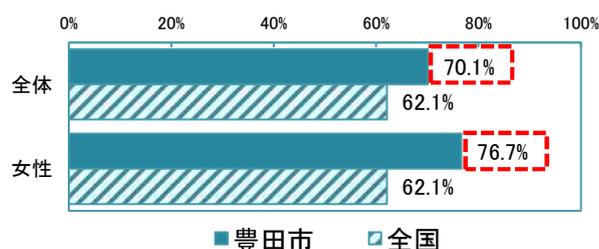


4 ワーク・ライフ・バランス、育児・介護と仕事の両立

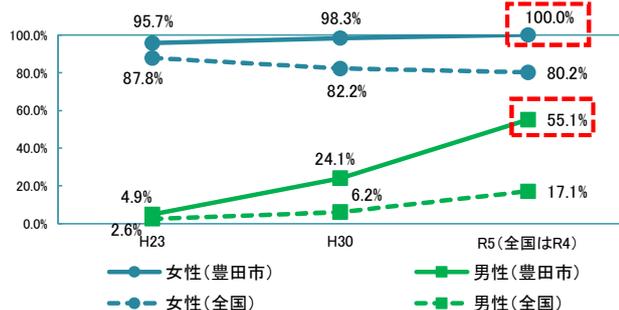
① 有給休暇、育児・介護休暇の取得

令和5年度における豊田市の年次有給休暇取得率は、全国を8.0ポイント上回っています。育児休業取得率は女性、男性ともに上昇しており、かつ全国より取得率が高くなっています。介護休業取得者数は、女性はやや減少し、男性は横ばいとなっています。

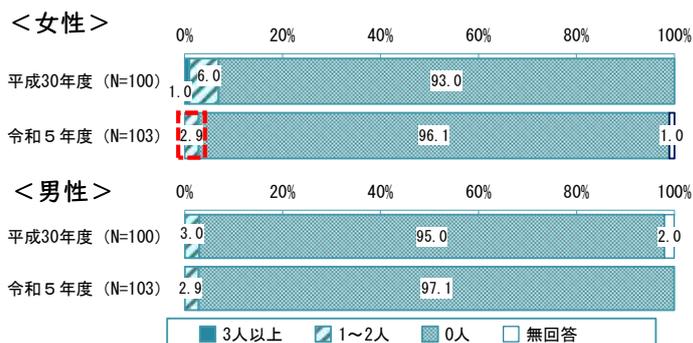
●【事業所】有給休暇取得率



●【事業所】育児休業取得率



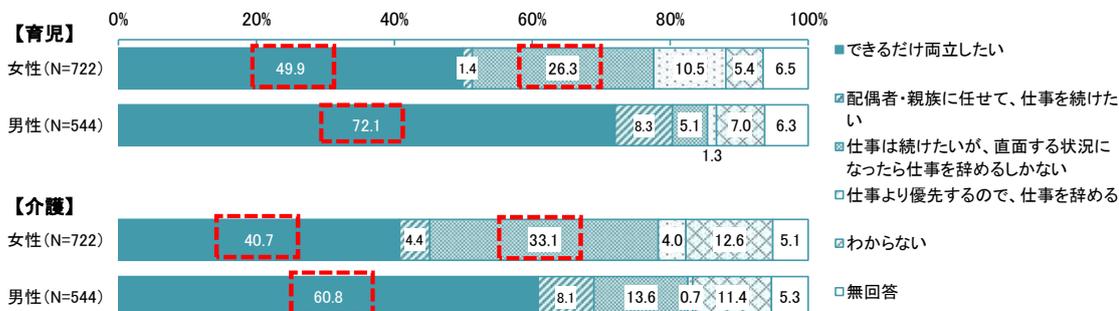
●【事業所】介護休業取得者数



② 仕事と育児・介護の両立についての考え

仕事と育児・介護の両立を希望している割合は女性よりも男性が多くなっている一方で、状況によっては仕事を辞めると考えているのは女性が多く、男女ともに仕事と育児を両立させたいと考えているが、直面する状況下においては女性側が仕事を辞めざるを得ないという現状が伺えます。

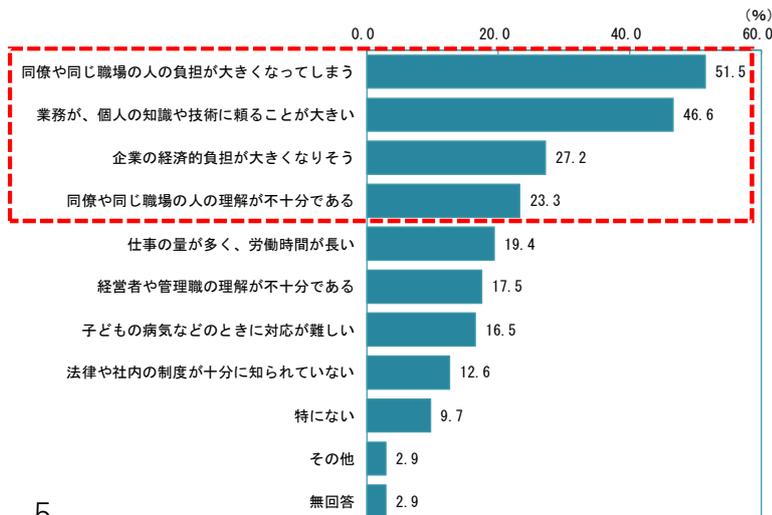
●【市民】仕事と育児の両立、仕事と介護の両立について



③ ワーク・ライフ・バランス支援を進める上での課題

ワーク・ライフ・バランスを進める上では、同僚や職場の人の負担が大きくなる、業務が個人の知識や技術に頼ることが大きい、企業の経済的負担が大きくなりそう、同僚や同じ職場の人の理解が不十分などの課題を感じている事業者が多くなっています。

●【事業所】ワーク・ライフ・バランス支援を進める上での課題

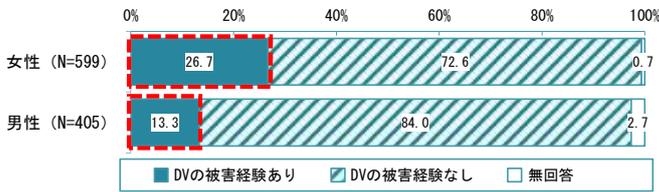


5 DVについて

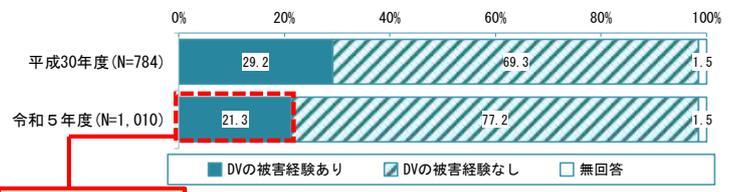
① DVの被害経験

DVの被害経験は、女性が26.7%、男性が13.3%で女性の方が10ポイント以上多くなっています。平成30年度と比較すると被害者は減少傾向ですが、現在も2割の人が被害にされています。

●【市民】DV被害経験の有無（男女）



●【市民】DV被害経験の推移

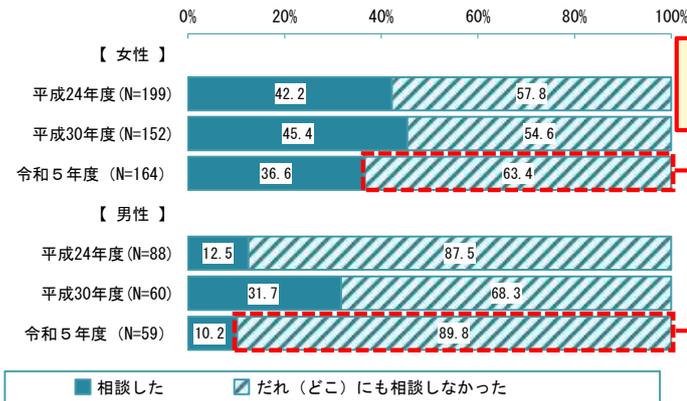


約5人に1人

② DV被害の相談

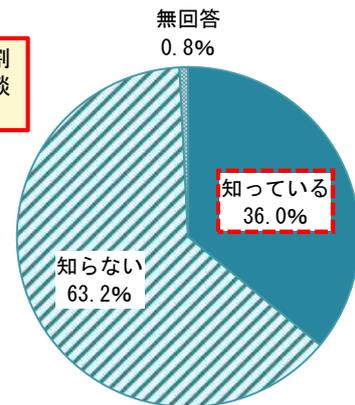
DV被害者のうち、相談した人の割合は女性、男性ともに前回調査よりも減少しており、特に男性においては前回調査31.7%から今回調査10.2%と大幅に減少しています。

●【市民】DV被害の相談



女性の6割、男性の9割がだれ（どこ）にも相談していません。

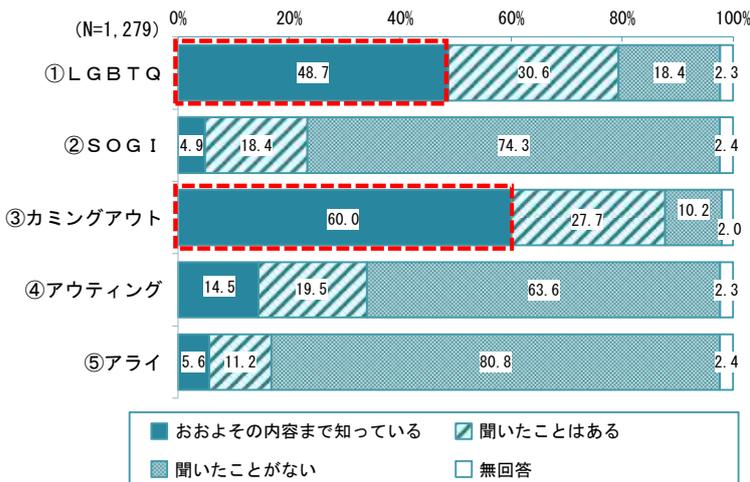
●【市民】DV相談窓口の認知度



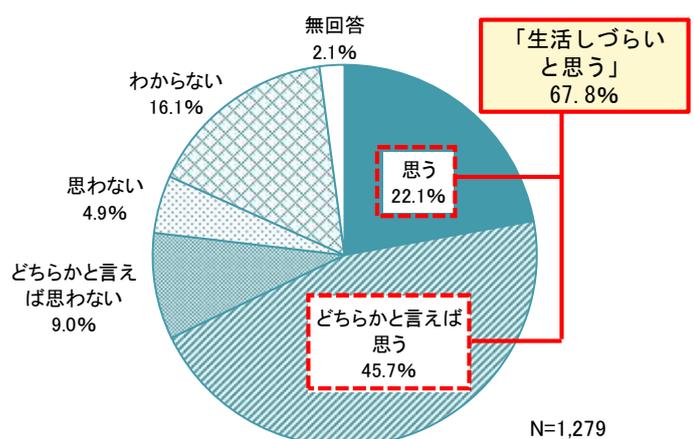
6 性の多様性について

言葉の認知度について、カミングアウトは60.0%、LGBTQは48.7%とそれなりの認知度がありますが、SOGI、アウティング、アライについてはほとんど知られていません。また、偏見や差別などでLGBTQの人たちが生活しづらい社会になっていると考える人は67.8%と多くなっています。

●性の多様性に関する言葉の認知度



●LGBTQの人たちが偏見や差別により生活しづらい社会と思うか

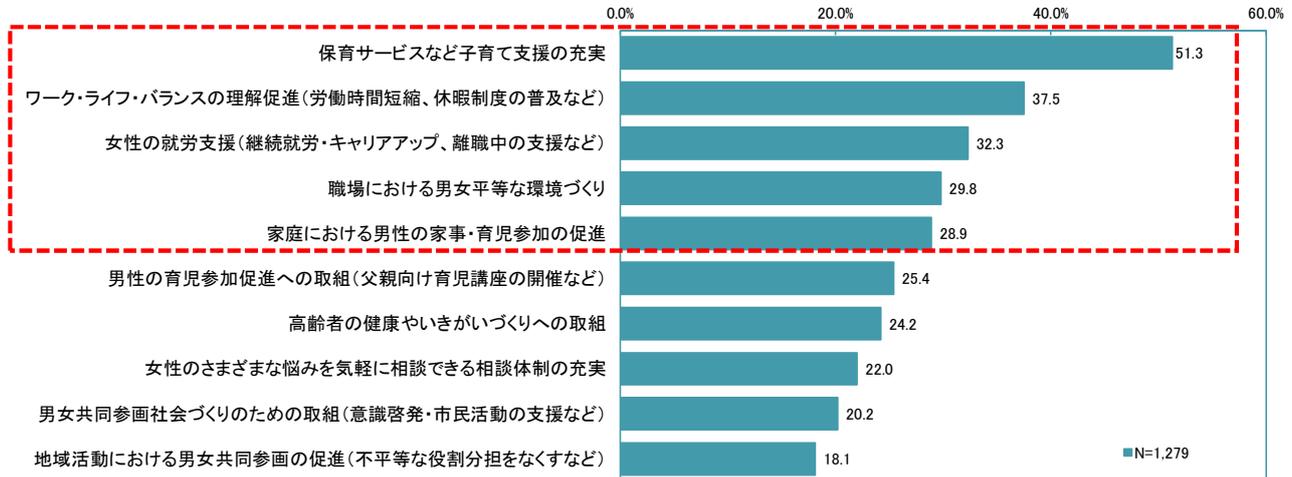


N=1,279

7 男女共同参画社会の実現に向けて重要だと思う市の取組

豊田市の男女共同参画社会の実現で重要と思う取組については、保育サービスなど子育て支援の充実が51.3%と最も高く、次いでワーク・ライフ・バランスの理解促進が37.5%、女性の就労支援が32.3%、職場における男女平等な環境づくりが29.8%、家庭における男性の家事・育児参加の促進が28.9%となっており、介護や子育て、女性の活躍に関する支援や、働き方の多様化が重要とされていることが分かります。

●【市民】男女共同参画社会の実現に向けて重要だと思う市の取組（5つ回答）



調査結果からわかる豊田市の現状

- 家庭生活、職場、地域活動について、市民調査では徐々に「平等」と感じる人が増えていますが、学校教育の場を除き、未だ4割以上が「男性優遇」と回答しています。一方、中学生調査では、市民調査との差が大きく、世代により感じ方が違っています。
- 男女の役割に関する考え方と行動には大きなギャップがあり、意識は改善傾向にあるものの行動には移せていない現状です。また、地域活動においても固定的な性別役割分担が根強く残っています。
- 女性の働き方について、継続就労への意識が高まっており、職場でも女性が働き続けやすい環境になってきています。一方で、育児や介護などは依然として女性に負担がかかりやすい状況となっています。
- DVの被害経験者は前回調査より減少しているものの、女性で2割半ば、男性で1割強が被害を受けています。しかし、被害を受けた際に相談していない人、相談窓口の存在を知らない人の割合が多くなっています。
- 性の多様性に関する言葉の認知度の向上がみられる一方で、未だ偏見や差別によりLGBTQの人たちが生活しづらい社会であると考える人が多くいます。

令和6年3月 豊田市 とよた男女共同参画センター（キラッ☆とよた）

〒471-0034 豊田市小坂本町1-25 豊田産業文化センター2F

TEL：0565-31-7780 FAX：0565-31-3270

e-mail：clover@city.toyota.aichi.jp

URL：https://clover-toyota.jp/

